

産学協同アントレプレナー教育プログラム〔起業家教育プログラム〕科目概要

基 礎 科 目 群

■アントレプレナーシップ論（イノベーションと起業家精神）

実際の起業家の体験をより重視する観点から、シリコンバレーのケースを中心にアントレプレナーシップの本質を講義する。基本的には演習形式とし、受講者による討議を中心とした授業運営とする。

■ベンチャービジネス論

現代社会における起業論とベンチャービジネス論についての理解を深める。また起業の基となるアイデア、イノベーションについて考えていく。

■事業計画論

事業とは何か、その歴史、理想的な経営者像、事業の基盤である人・物・金に関わる基礎知識、決算書の読み方、これらの総括としての事業計画の立て方などを経営学・会計学・経済学との関連を念頭に置きながら企業社会の実務に即した講義を行う。

展 開 科 目 群

■アントレプレナー特殊講義Ⅰ（スモールビジネス・マネージメント論）

①「スモールビジネス・マネージメント論」とは創業支援事業、すなわち、企業を希望する者、あるいはまだ事業経験の少ない者へ起業や企業経営のための知識やノウハウ、不足する経営資源、創業施設を提供して創業支援することである。そのためにビジネス・インキュベーションの意義・役割・構造などについて議論する。

②日本経済における中小企業の多様性の理解や特にベンチャー企業の位置や果たす役割、起業の意義、ベンチャー企業支援策を紹介する。

③ベンチャー企業の市場戦略や経営システム等に関する基礎的知識を理解した後、ベンチャー企業に関わるビジネスケースを通読すること、ベンチャー企業や起業家が出会う様々な状況に対する判断能力と問題解決能力を養う。

■アントレプレナー特殊講義Ⅱ（製品事業化システム論）

独立系ベンチャーと企業内ベンチャーとに分けて議論を進め、主としてハイテクスタートアップの本質に迫っていく。最終的に先端科学技術を事業化へ向けていくための方策について、一定の考え方を獲得することを目標とする。

実 践 科 目 群

■アントレプレナー実践講座

本講座は、創造的問題発見や解決能力の獲得といった点を重視し、15名程度の少人数講座として開設する。「問題意識」「志」「プランニング」「行動」等の各ステップのケース解説と、実際に自分で取り組んだ内容をレポートする。

■起業活動インターンシップ演習（BKC インキュベーター・入居ベンチャー企業）

BKC インキュベーター入居企業等ベンチャー企業への長期（6ヶ月以上）実践型インターンシップとして、就業体験や定型作業ではなく、準社員の業務内容とし、課題解決型のインターンシップとする。

■資金計画論

企業が事業活動を行うとき、必ず金の流れ（財務活動）が生じる。この企業の財務活動に関し、合理的な意思決定に必要な知識と理論について教育を行う。その主な内容としては、企業の投資に関する決定（資本予算）、増資・銀行借入・社債発行など多様な資金調達手段からの選択（資金調達決定）、株式と負債の割合の決定（資本構成）、配当の決定（配当政策）、安全かつ低費用の短期資金管理（運転資本管理）などがある。

■生産システム論

本講義では、従来相対的に独立した系として扱われてきた生産（製造）、研究開発、企業内外、国内外の生産、技術関連活動を一個の有機的な統一性をもつ生産システムとして捉え、経営（生産）戦略と関連づけて、その最適編成を検討する。

■アントレプレナー特殊講義Ⅲ（知的財産戦略）

知的財産法は、経済的な価値のある情報に対して「財産」としての法的取扱いを行う際の諸問題を考察する分野である。企業及び社会が必要とする知的財産権についての基礎から応用までの知識を修得する。また、本来のフィールドは法学にあるが、技術的知見をも必要とする極めて学際的な分野でもあるため、その活用能力を育成するためのケーススタディーを積極的に行う。

■アントレプレナー特殊講義Ⅳ（イノベーション戦略論）

本講義では、技術変化の速度や技術変化の方向性の予測の他、技術変化が市場や産業構造に及ぼす影響を予測するための技法、新しい技術を製品やサービス、そして製造に実践するのを容易ならしめる技法など、多岐に亘る技法の知識とスキルの習得を目的とする。

■起業支援インターンシップ演習（BKC インキュベーター・IM 室）

インキュベーションマネジャー（IM）室での長期（6ヶ月以上）実践型インターンシップ。インキュベーター企画運営業務（IM 補助業務）、入居企業支援業務（販売促進支援、経理実務支援等を外部のコンサルタントや会計士の指導に基づき実施）を業務内容とし、課題解決型のインターンシップとする。

■産学協同アントレ・起業活動インターンシップ演習

コンソーシアム企業の協力により、産業界における具体的テーマを基に、その解決に取り組むインターンシップとする。



経営学部教授 黒木正樹

アメリカの大学で経営学を学び、競争を生きてきた私が培った哲学は、「より強い個人アントレプレナーを生むことが、経済や社会を活性化させるための必須条件である」ということです。90年代前半、私はネブラスカ州の大学で教壇に立ち、数多くのアメリカ人学生と日本の経営に関して議論をし、また人生観を議論してきました。その中で私は、アメリカと日本の学生を比較して、日本人は「個人として生きていく力」が決定的に弱いということを感じました。終身雇用、年功序列型の日本社会では、幼少期よりグループ・組織に属するための教育が最も価値があると言う前提の教育を受け、個々人の生きていく力と責任はあいまいになっています（勝手主義ではありません）。21世紀のグローバル社会では、一人一人が自己責任を意識し、組織に属さなくても個人として強く生き抜いていくための基礎学力を身につけていくことが大切です。「アントレプレナーシップ」と呼ばれる起業家精神は、必ずしも独立して起業するためだけのものではありません。自分の人生にチャレンジできるかどうかを問うものです。自分の生き方を見つめなおし、社会に貢献し、自己解決能力を身につけ、組織に属さなくても個人として強く生き抜いていくための基礎学力を身につけた人間になるための精神だと私は考えます。



経済学部 3 回生 東野 光

私は経済学部の勉強以外に将来に役立つことを学びたいと思い、産学協同アントレプレナー教育プログラムを受講しました。このプログラムでは学部を超えて学ぶことが出来るので、他学部の学生からも知識が身につきます。また学部によって異なる考え方があるので、新たな視点から物事を考えることが出来ます。そして授業では先生方やベンチャー企業のゲストスピーカー社長のお話等、貴重な経験談を伺うことが出来ます。普段では聞くことが出来ない貴重なお話も多くあり、アントレプレナー教育の講義ならではのものだと思います。そして私はこの講義を通して沢山の良き仲間と出会うことが出来ました。アントレ受講生は活発に団体活動をしたり、自身のビジョンをしっかりと持っていたりと意識の高い学生が沢山います。そのような学生と切磋琢磨することで、私自身のモチベーションが向上し、何事にも積極的に取り組む姿勢が身につきました。「起業を考えている方」以外にも「新たな経験を積みたい方」、「何かに挑戦したい方」にもオススメです！



生命科学部 3 回生 岡崎卓也

大学では他学部の講義を受ける機会がありません、理系の人が経営学部の講義を受けると意味ではいいチャンスであると思います。アントレプレナーという聞きなれない言葉ですが、プログラムの内容は起業についてのケーススタディやビジネスに必要な知識の取得を2回生で学び、3・4回生で実際のビジネスプラン作成や、起業された社長の方などの講演を聞くような形になります。このプログラムでは実務的な事を学ぶことができます。例えば資金計画論の授業では簿記会計に関することを学びますが、資金の流れや資本などの財産の蓄積の理解することを重視した構成になっています。この講義によって資金計画を立てられるだけでなく、他の会社の財務に関する状態を知ることでもできます。知的財産戦略論では特許などの法的な勉強に加え、実際の特許を検索したりすることもできるようになります。演習が中心となっているのがこのプログラムの特色といえるでしょう。



経営学部 3 回生 河野初音

平凡な大学生活を変えてみたい。そんな軽い気持ちで受講した産学協同アントレプレナー教育プログラムでした。実際、授業を受け始めてみると、そこには通常授業にはない面白さと刺激が溢れていました。ビジネスプラン作成方法を実際に起業した先生から教えてもらい、理系文系の垣根なくそのプランを受講者同士で考える。今まで学んだ経営の知識やフレームワークを実際に上手く生かすことの難しさも実感でき、一人では考えにくいビジネスの視点を他の受講生と一緒に考えることによって、新たな価値観が生まれました。「変わりたい」と思ったら、そこから行動するかしないかは自分自身の問題です。アントレの授業はそのアクションを起こすためのきっかけと、様々な手助けを与えてくれるだけなのです。私はこの授業で自分の小さな世界から抜け出すきっかけになりました。後輩の皆さんにとっても「より充実した大学生活を過ごせる」きっかけになることを願っています。



情報理工学部 3 回生 谷端奈央子

私が本プログラムを受講したのは、何か専門外の知識・経験を持っておきたいと考えたからです。近年、専門性の細分化が問題としてあがっています。例えば、情報理工学部では情報系科目と英語科目は受講必須として設定されており、多くの人が学びますが、経営系の科目は少なく、必須でもないため受講する人は多くありません。それ故に、自分から他分野の学問をかじりに行かなければ、特定の偏った分野のことしか分からない人間になってしまいます。学問はジグソーパズルのようなもので、繋げることが出来ますが、得られるのはピース1つずつです。専門分野の一部分だけで満足するか、他分野のことも精力的に学んでもっと大きなパズルを完成させるかは、全て個人の行動力にかかっています。私は本プログラムに参加して、正課では学べない経営・経済的な知識と他学部の友人を多く得ることが出来ました。本プログラムは起業したい人だけのものではありません。見聞を広げたいやる気ある方に、是非お勧めします。



理工学部 3 回生 澤邊太志

あなたの大学生活はとても面白いものですか?もっと他学部の方々と交流を持ちたい、理工学部で学ぶ専門的なこと意外に、経済・経営学部で学ぶようなことも学んでみたいと思いませんか? この産学協同アントレプレナー教育プログラムの魅力は、他学部の人との交流や多くのゲスト社長の方と直接会話し、人脈を広げることができる良い環境が提供されるということです。確かに、このアントレ教育を受講することで、理工学部には「専門や基礎専門」があるので、大学生活がさらに忙しいものになることは事実です。文理融合されたBKCの環境ならではの貴重な体験や知識をこの教育を通して学ぶことができるということも事実です。想像してみてください。もし、理数系の専門知識を持ち、経営学、経済学の知識をも持ち合わせている人がいたら最強だと思いませんか。そんな人になりたいと感じたあなたは、是非このプログラムを受講してみて、証明してみてくださいいかがでしょうか?!

立命館大学
産学協同アントレプレナー 教育プログラム
〔起業家教育プログラム〕



募集要項 2011 年度入学者募集版

〔対象〕経済学部・経営学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部 1 回生

2011 年度 1 回生のみ募集

〈ガイダンス日程〉

会場はすべてラルカディア「R-201」教室です。

〔第1回目〕

11/ 7 日 18:00－19:00

〔第2回目〕

11/11 金 18:00－19:00

〔第3回目〕

11/17 木 18:00－19:00

立命館大学 産学協同アントレプレナー 教育プログラム
ホームページ <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/entre/>



立命館大学 産学協同アントレプレナー教育プログラム [起業家教育プログラム]

Ritsumeikan University Entrepreneurship Program

本プログラムは、「起業家」に代表される「自立的で創造的な人材」「起業家精神（アントレプレナーシップ）に満ちた人材」の輩出を社会が期待していることを受け、BKC文理6学部共通のプログラムとして「産学協同アントレプレナー教育プログラム」を開発するものです。現在、「起業家」を養成しようと国や県、市も力を入れています。そういった社会的背景に対応し得る学生を育成できる環境が本学には十分整っています。

特に本学BKCの場合、24時間業務可能なオンキャンパス型学内施設として、現在ベンチャー企業が20社以上入居・活動し、そこに在学生在が起業活動インターンシップとして参加している「BKCインキュベータ」が設置されています。また、実際に起業活動にチャレンジしようとする学生に対しては、その活動を促進させることを目的に、「学生ベンチャーコンテスト」や「学生起業家支援奨励金」などの充実した起業支援施策を行ってきています。

さらに、本学はリエゾン活動を通して企業との深いつながりを有しており、その誇るべき産学官連携のネットワークを活かすかたちで、本プログラムの開発を支援する「産学協同アントレプレナー教育プログラム開発コンソーシアム」を設置しています。講師派遣、インターンシップ受入、教材開発などにおいて企業からの協力を得るかたちで、産業界の主体的かつ積極的な参画を組織してきています。

本プログラムでは、アントレプレナーシップの本質を理解するための導入科目を置くとともに、「基礎科目群」「展開科目群」「実践科目群」を配置しています。とりわけ起業活動インターンシップなどの「実践科目群」を充実させてきており、単なる「座学」ではなく、実際に起業活動にチャレンジすることを重視したカリキュラム内容としているのが大きな特色です。また、「コンソーシアム」には、本学の産官学連携の蓄積を基盤として、最先端技術を駆使するハイテク企業・ベンチャー企業が多数参画しており、現場企業の第一線で活躍されている方を講師に招聘しての講義は、圧倒



的な迫力があり、必ずや、みなさんの起業へのモチベーションを高めてくれることでしょう。

こうしたカリキュラム内容を提供できるのも産官学連携の太いパイプを持ち、歴史的にも豊かな蓄積のある本学ならではといえます。このような「アントレプレナー」についてまとめた形で学べるプログラムは学部レベルでは日本でも初めてであり、本学BKCならではの試みといえるでしょう。みなさんの積極的な受講を期待するものです。

プログラムの位置づけ

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」においてうたわれているように、21世紀は「知識基盤社会」であり、人々の知的活動・創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の養成は極めて重要な課題です。この「知識基盤社会」が求める人材は、「自立的で創造的な人材」であり、「アントレプレナーシップに満ちた人材」とであるといえます。

一方、現代の大学教育は、依然として「教える知識」を基本として構成されており、こうした「自立的で創造的な人材」「アントレプレナーシップに満ちた人材」を養成する教育が、仕組みとして構築され、体系的に実践されているわけではありません。つまり、「アントレプレナーシップ」の重要性が社会的に認識されつつあるにもかかわらず、現在の大学教育において体系的な「アントレプレナーシップ」を涵養する教育プログラムは、ほとんど存在していません。本学がこの取組を行う背景には、このような社会的状況があります。

したがって、本プログラムでは、「自立的で創造的な人材」「アントレプレナーシップに満ちた人材の養成」を広義の目的とし、「起業」という社会的営みを中心的題材として置き、導入科目として「アントレプレナーシップ論」を配置し、アントレプレナーシップの本質の理解を促進し、各自が目的意識を明確にしながらプログラムの履修に取り組むことができるよう指導していきます。

このように、本プログラムはアントレプレナーシップの本質を理解し、自ら起業を試みる機会に直面することにより、起業家を育成するプログラムです。また履修生が明確な目的意識や問題意識を持つことにより、他の専門科目の意欲的履修が促進され、専門性の高い起業家が育成されることが期待されます。

本学としては、アントレプレナー教育について「創造教育」という範疇や意味で強い期待をよせており、人間形成や人間教育という枠組みでも大きな意義を持っていると考えています。

履修方法・科目編成

(1) 本プログラムは、BKC6学部（経済学部・経営学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部）の共通プログラムであり、原則として16単位のパッケージ履修を履修要件とします。

(2) 導入科目としての「アントレプレナーシップ論」は必修科目です。

(3) また実践科目群から1科目を必修とします。

(4) なお、基礎科目群の履修を終了した段階で、次の展開科目群の受講にあたっては、原則として以下の先修要件を課します。この要件をクリアできない場合は、次段階の履修としての展開科目群へは進めないこととなりますので、特に留意して履修にあたって下さい。

展開科目群への履修にあたっての先修要件

展開科目群への履修を進めるためには、基礎科目群の履修において、必修科目である「アントレプレナーシップ論」の履修・単位認定を含め最低4科目以上の履修・単位認定を必要とします。なお修得した科目のうち成績上位4科目の総合成績評価がGPA基準で3.0以上（総合的な成績評価で「B」以上）であることを要します。



プログラムの登録方法

プログラムの受講を希望する場合、右記の流れで登録を行う必要があります。



応募 (第1次登録) について

■ 応募期間

2011年11月7日[月]
～11月30日[水]の18:30迄

最終日時厳守

■ 提出先

「学びステーション」の提出窓口
「学びステーション」…プリズムハウス1階
(月～金 9:00～18:30)

■ 応募方法

「プログラム出願票 (指定用紙)」・2011年度前期の成績が示されている「成績通知表の写し」(各自でコピーしたもの)を添付して提出 (GPA/F評価科目の確認のため、証明書発行機で発行した「成績証明書」は不可とする)

[注意] 応募期間最終日は、混雑が予想されますので、「ゆとりをもって早々の応募」をする様にして下さい。

今回の募集人数は全体で70名程度とする予定です。希望者多数の場合は志望理由等により選考する場合があります。

履修許可者発表

2011年12月16日[金] 13:00

所属学部の掲示板にて発表

※履修許可された場合、辞退を申し出ることは原則として認めません。

受講登録 (第2次登録) ※履修許可者のみ

2012年4月に行う受講登録の際、学部ごとに指定された期間中にプログラム科目も受講登録して下さい。この登録を行わなければ、プログラム受講者として確定しませんので注意して下さい。その他連絡事項は、「産学協同アントレプレナー教育プログラム」ホームページの「ニュース&トピックス」の欄または所属学部の掲示板などでお知らせします。

※開講時期は原則的なものを示しており、必ずしも当該時期に開講されない場合もあります。各年度の開講計画・時間割等で必ず確認するよう留意してください。